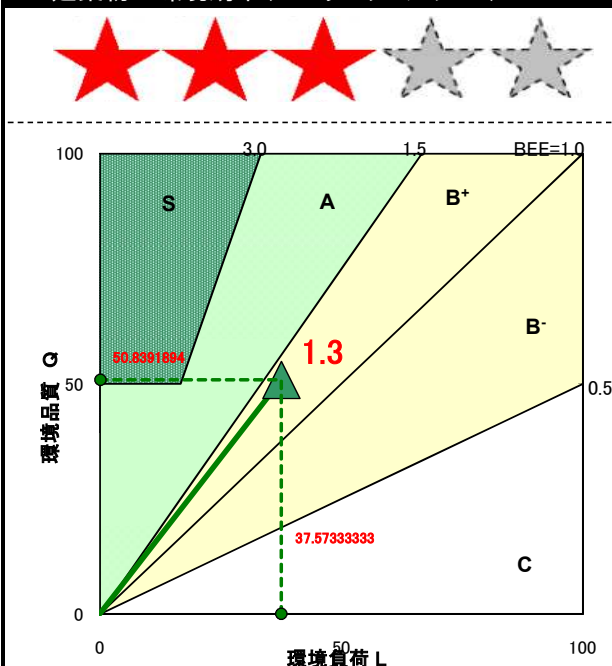


CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要			■ 外観	
建物名称	医療法人 相生会 にしくもと病院	階数	地上6F	
建設地	熊本県熊本市富合町古閑1012番地	構造	RC造	
用途地域	準工業地域及び用途無指定区域	平均居住人員	146 人	
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	8,760 時間/年	
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2012年4月 予定	評価の実施日	2011年5月11日	
敷地面積	12,961 m ²	作成者	日揮株式会社	
建築面積	1,749 m ²	確認日	2011年5月16日	
延床面積	7,389 m ²	確認者	日揮株式会社	

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



BEE = 1.3

$$\text{BEE (環境効率)} = \frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$$

■ CASBEE 評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	☆☆☆☆☆	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	☆☆☆☆	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	☆☆☆	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	☆☆	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	☆	劣る	0.5未満	—

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

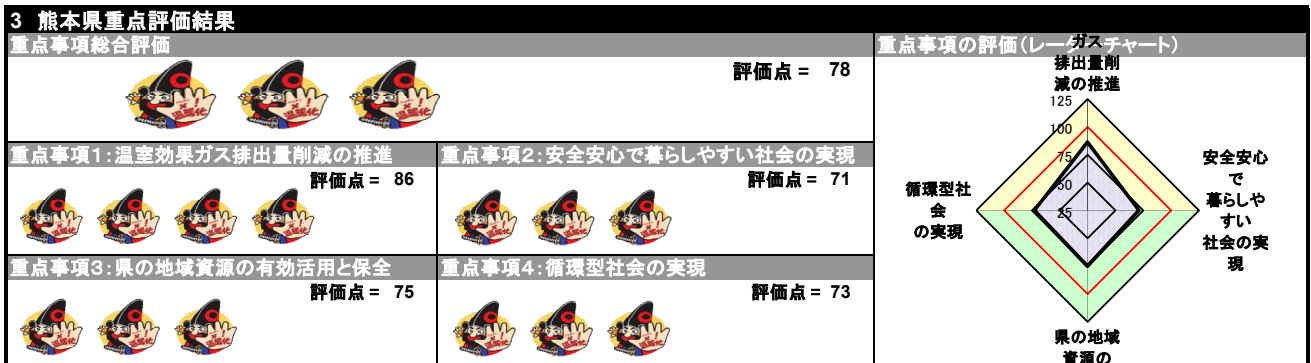
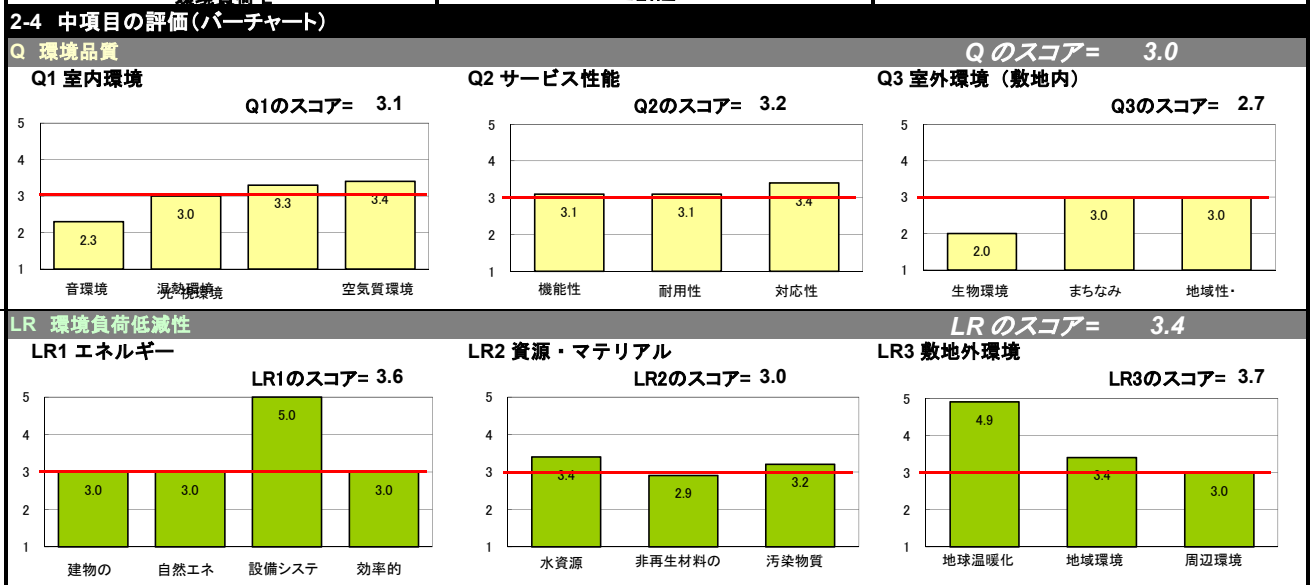
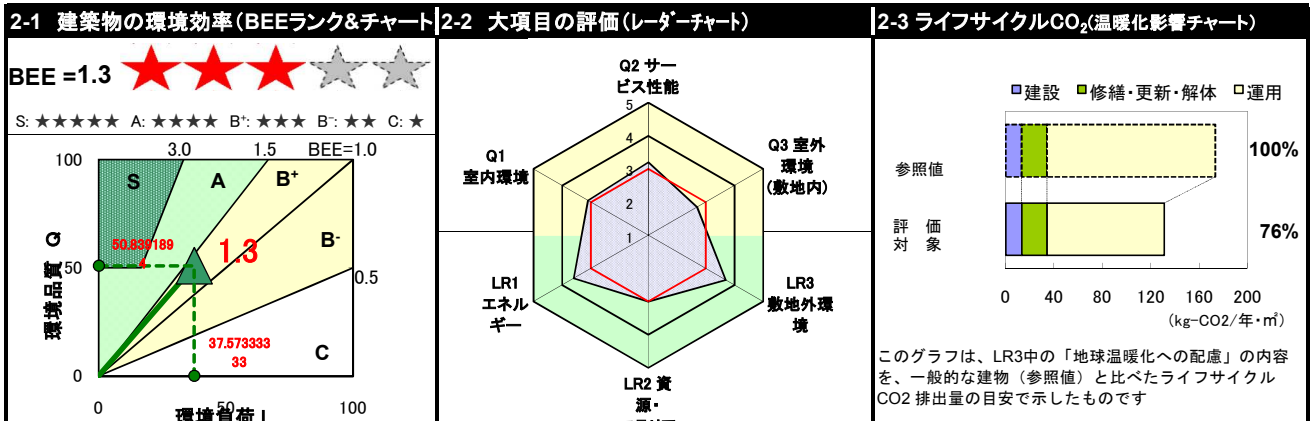
重点事項総合評価			評価点
			78
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	評価点	■ 熊本県重点評価基準	
	86.4	判定値(評価点)	ランク表示
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	71.2	100点以上	
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	75	80点以上100点未満	
【重点事項4】 循環型社会の実現	72.7	60点以上80点未満	
		40点以上60点未満	
		40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE® 熊本《新築》【評価結果】

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	医療法人 相生会 にしくまもと病院	階数	地上6F	
建設地	熊本県熊本市富合町古閑1012番地	構造	RC造	
用途地域	準工業地域及び用途無指定区域	平均居住人員	146 人	
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年	
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2012年4月 予定	評価の実施日	2011年5月11日	
敷地面積	12,961 m ²	作成者	日揮株式会社	
建築面積	1,749 m ²	確認日	2011年5月16日	
延床面積	7,389 m ²	確認者	日揮株式会社	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE®熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

- ・建物の熱負荷の抑制を図り、設備システムの高効率化、省エネにより環境への負荷を低減する。
- ・室内環境及び室外環境の快適性の向上を省エネと共に実現するよう計画する。
- ・地球環境、周辺環境等敷地外環境への配慮も行う。

Q1 室内環境

- ・音環境：天井に吸音材を使用。
- ・温熱環境：空冷ヒートポンプルームエアコンによる分散空調方式による適切な空調コントロール及び冷暖房切替により制御。
- ・光・視環境：室内の適切な照度、照明器具にルーバーを取付けてグレア対策を施す。
- ・空気質環境：用途によりクリーン度を配慮した換気設備。

Q2 サービス性能

- ・機能性、快適性：1床室11m²、多床室8.0m²/床以上で空間のゆとりを確保。
- ・耐用性、信頼性：耐震構造による信頼性の確保。
- ・対応性、更新性：ハートフル法の準拠。設備シャフト等により点検、更新性の確保。

Q3 室外環境（敷地内）

- ・生物環境の保全・創出：地域性に配慮した樹種による植栽、現況以上に緑地面積確保。
- ・景観への配慮：病棟3階から上部を後退する事により圧迫感を避け、緑地、駐車場による空地確保。

LR1 エネルギー

- ・建物の熱負荷の低減：外気に接する部分の断熱材施工。室外機置場バルコニー床による庇形状による西日対策
- ・設備システムの高効率化：空冷ヒートポンプパッケージ方式(COP3.6)による高効率運転、エコ給湯による消費エネルギーの削減。
- ・効率的運用：人感センサーによる省エネ対策。

LR2 資源・マテリアル

- ・汚染物質含有材料の使用回避：下水道法に基づく排水基準の準拠。
- ・水資源保護：節水器具の採用。

LR3 敷地外環境

- ・地球温暖化への配慮：オゾン層破壊係数0の新冷媒ガス使用。オール電化設備によるCO₂削減。
- ・地球環境への配慮：浸透性舗装により地域インフラ負担軽減。
- ・周辺環境への配慮：騒音規制法、日影規制（規制区域外だが）等に考慮した計画。

その他

- ・建設リサイクル法による廃棄物発生削減を図る。

CASBEE-新築(簡易版)2008年版
医療法人 相生会 にしくもと病院

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2008年

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
				評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質								3.0	
Q1 室内環境					0.40			3.1	
1 音環境				2.3	0.15	2.3	1.00	2.3	
1.1 騒音				2.0	0.40	3.0	0.40		
1 暗騒音レベル				2.0	1.00	3.0	1.00		
2 設備騒音対策				-	-	-	-		
1.2 遮音				2.4	0.40	2.3	0.40		
1 開口部遮音性能				3.0	0.40	3.0	0.30		
2 界壁遮音性能				2.0	0.60	2.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	2.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	2.0	0.20		
1.3 吸音				3.0	0.20	1.0	0.20		
2 温熱環境				3.0	0.35	2.7	1.00		
2.1 室温制御				3.1	0.50	2.5	0.50		
1 室温設定				3.0	0.38	3.0	0.57		
2 負荷変動・追従制御性				-	-	-	-		
3 外皮性能				2.0	0.25	2.0	0.43		
4 ゾーン別制御性		細かな空調ゾーニング		4.0	0.38	-	-		
5 温度・湿度制御				-	-	-	-		
6 個別制御				-	-	-	-		
7 時間外空調に対する配慮				-	-	-	-		
8 監視システム				-	-	-	-		
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	0.20		
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	0.30		
3 光・視環境				3.2	0.25	4.1	1.00	3.3	
3.1 昼光利用				4.2	0.30	4.2	0.30		
1 昼光率		安定した昼光率の確保		5.0	0.60	5.0	0.60		
2 方位別開口				-	-	-	-		
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	0.40		
3.2 グレア対策				3.0	0.30	4.0	0.30		
1 照明器具のグレア				-	-	-	-		
2 昼光制御				3.0	1.00	4.0	1.00		
3.3 照度				2.0	0.15	3.0	0.15		
1 照度				2.0	1.00	3.0	1.00		
2 照度均斉度				-	-	-	-		
3.4 照明制御				3.0	0.25	5.0	0.25		
4 空気質環境				3.5	0.25	3.1	1.00	3.4	
4.1 発生源対策				3.0	0.50	3.0	0.63		
1 化学汚染物質				3.0	1.00	3.0	1.00		
2 アスベスト対策				-	-	-	-		
3 ダニ・カビ等				-	-	-	-		
4 レジオネラ対策				-	-	-	-		
4.2 換気				3.5	0.30	3.3	0.38		
1 換気量		建築基準法における換気量の1.7倍(1.4倍以上)		4.0	0.50	4.0	0.33		
2 自然換気性能				3.0	-	3.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	0.33		
4 給気計画				-	-	-	-		
4.3 運用管理				5.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視				-	-	-	-		
2 喫煙の制御		建物全体が禁煙		5.0	1.00	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.2	
1 機能性				3.0	0.40	4.0	1.00	3.1	
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.60	5.0	0.60		
1 広さ・収納性				3.0	-	5.0	1.00		
2 高度情報通信設備対応				-	-	-	-		
3 バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性				3.0	0.40	2.5	0.40		
1 広さ感・景観				3.0	-	4.0	0.50		
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-		
3 内装計画				3.0	1.00	1.0	0.50		
1.3 維持管理				-	-	-	-		
1 維持管理に配慮した設計				-	-	-	-		
2 維持管理用機能の確保				-	-	-	-		
2 耐用性・信頼性				3.1	0.31	-	-	3.1	
2.1 耐震・免震				3.0	0.48	-	-		
1 耐震性				3.0	0.80	-	-		
2 免震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.33	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.23	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.23	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.09	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.08	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.15	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.23	-	-		

2.3 適切な更新						
2.4 信頼性			3.8	0.19	-	-
1	空調・換気設備	地震時の部分的被害が全体に及ばない	4.0	0.20	-	-
2	給排水・衛生設備	節水器具の採用	4.0	0.20	-	-
3	電気設備	浸水の危険なし(地上設置)	4.0	0.20	-	-
4	機械・配管支持方法	耐震クラスBに加え機能確保	4.0	0.20	-	-
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-
3 対応性・更新性			3.4	0.29	3.2	1.00
3.1 空間のゆとり			4.6	0.31	3.4	0.50
1	階高のゆとり	1階階高:4.0m 病棟階高:3.6m	5.0	0.60	3.0	0.60
2	空間の形状・自由さ	建築躯体壁長さ比率が低く、空間・設備の自由度がある	4.0	0.40	4.0	0.40
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	0.50
3.3 設備の更新性			3.0	0.38	-	-
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-
6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-
1 建物の熱負荷抑制			3.0	0.30	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20	-	-
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-
3 設備システムの高効率化		ERR=29.2	5.0	0.30	-	-
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-
1.1	節水	節水コマ、節水器具の採用	4.0	0.40	-	-
1.2	雨水利用・雑排水再利用		3.0	0.60	-	-
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-
2	雑排水再利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			2.9	0.63	-	-
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用	既存建物改修の予定	4.0	0.24	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取り組み	再利用できるユニット部材を使用	4.0	0.24	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.2	0.22	-	-
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-
3.2	フロン・ハロンの回避		3.3	0.68	-	-
1	消火剤	ハロン消火剤使用なし	4.0	0.33	-	-
2	断熱材		3.0	0.33	-	-
3	冷媒		3.0	0.33	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-
1 地球温暖化への配慮		省エネ設備の導入	4.9	0.33	-	-
2 地域環境への配慮			3.4	0.33	-	-
2.1	大気汚染防止	燃焼機器を使用しない	5.0	0.25	-	-
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-
2.3	地域インフラへの負荷抑制		2.6	0.25	-	-
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-
3	交通負荷抑制		3.0	0.33	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.33	-	-
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-
1	騒音		3.0	1.00	-	-
2	振動		-	-	-	-
3	悪臭		-	-	-	-
3.2 風害、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-
2	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-

熊本市重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 医療法人 相生会 にしくもと病院

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v3.2)_kmt2010(v1.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE-熊本《新築》2010年版

★熊本市重点評価結果				総合評価点		78.3
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				86.4	0.40	34.56
Q1-2.1.3	外皮性能	2.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.2	昼光制御	3.2	0.05			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	3.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	5.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				71.2	0.20	14.24
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				72.7	0.20	14.54
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.0	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	4.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数